

2. 養殖漁業振興事業費

1) 本県の魚類防疫対策

津村祐司

〔目的〕淡水養殖業における魚病被害の軽減と予防を図り、養殖経営の安定化と安全な食品生産に寄与する。

〔方法〕

魚類防疫会議－魚類防疫対策の効率的な運用を図るため、水産庁、水試で協議を行う。

魚病講習会－養殖業者、漁業協同組合、県職員等を対象に、防疫技術の普及を図る。

アユ及びニジマスのビブリオ病に係る防疫協議会－水産用ワクチンの適正使用を図るため、指導機関、水産課、畜産課との間で協議を行う。

魚病診断－魚病発生時に病因の解明、薬剤感受性等魚病診断を実施し、対策を協議する。

水産用医薬品適正使用指導－魚病診断結果を踏まえ、水産用医薬品の適正使用を指導する。
水産用医薬品残留調査－アユ、ニジマスを対象に出荷時に水産用医薬品が残留していないかどうか調査する。

〔結果〕

魚類防疫会議－

全国魚類防疫推進会議（9月24日、2月5日）

滋賀県魚類防疫会議（5月27日）

魚病講習会－

開催日時：平成4年11月6日

開催場所：滋賀県水産試験場2階会議室

講演題目：「冷水病を中心としたアユの魚病について」

講師：東京大学農学部水産学科 若林久嗣教授

アユ及びニジマスのビブリオ病に係る防疫協議会－

開催日時：平成4年6月9日

開催場所：滋賀県水産試験場2階会議室

ワクチン使用状況：アユ－4件、ニジマス－0件

魚病診断－

総診断件数：144件（4～12月）

水産用医薬品残留調査－

アユ（オキシリン酸）40検体＝8業者 残留なし

ニジマス（オキシリン酸）20検体＝5業者 残留なし

滋賀県魚病指導総合センターにおける平成4年度魚病診断状況

(診断件数)

項 目		月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合 計
ア ユ	ビブリオ病				1	3	3	6	1						14
	冷水病		2	4	2	3					7	1	5	8	32
	運動性のエロモナス症							1							1
	シュードモナス症		1	1								4	2	3	11
	連鎖球菌症								1						1
	カラムナリス病						1								1
	ギロダクチルス症		1		2	4	2		1			1	1	1	13
	その他の外部寄生虫症					2			1						3
	口グサレ病		5	2	2	6	2	2				1			20
	水カビ病			1		2		1			2				6
	グルゲア症				1	1									2
	合併症*1		2	1	1	6	2	2	2		1				17
	不明		3												3
小計			14	9	9	27	10	12	6		10	7	8	12	124
コ イ ・ フ ナ 類 *2	カラムナリス病		1	1		1									3
	運動性のエロモナス症								1						1
	外部寄生虫症		1	1		1	1	1	1	1					7
	ねむり病					1									1
	スレ			1											1
	酸欠										1				1
小計			2	3		3	1	1	2	1	1				14
マ ス 類	ビブリオ病														
	せっそう病														
	外部寄生虫症										2				2
	水カビ病								1						1
	IHN												1		1
	不明		1		1										2
小計			1		1				1		2		1		6
合 計			17	12	10	30	11	13	9	1	13	7	9	12	144

備考 *1口グサレ病+冷水病

*2ブラックバスを含む

口グサレ病+運動性のエロモナス症

口グサレ病+ギロダクチルス症

口グサレ病+その他の外部寄生虫症

口グサレ病+水カビ病

水カビ病+その他の外部寄生虫症

水カビ病+冷水病

ビブリオ病+ギロダクチルス症

ビブリオ病+その他の外部寄生虫症